

2010年度 環境管理報告書



「産地の風景を残そう！」応募作品 作品名「秋の訪れ」農事組合法人 茨城県西産直センター 江戸川・江東支部

1 ごあいさつ

今般の東日本大震災により被災された皆さまに対し、心よりお見舞いを申し上げます。
被災された皆さまのくらしの一日も早い復興と、ご健康を心よりお祈り申し上げます。



2010年12月にカンクンで開催された国連の気候変動枠組み条約第16回締約国会議（COP16）では、発展途上国の温暖化対策を支援する「グリーン気候基金」の設立などを盛り込んだ「カンクン合意」が採択されました。

また、名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）では、2020年までの生態系保全の世界目標「愛知ターゲット」と、遺伝資源の利益配分を定めた「名古屋議定書」が採択されました。

私たち人間を含む生物のいのちとくらしを支える大切な地球を守るためには、各国の利害や思惑を超えたグローバルな視点での国際合意が必要になります。

東都生協は設立以来、食と農を事業と運動の基軸に置き、環境にやさしい農畜産品の充実と環境に配慮した商品の利用普及をすすめてきました。事業活動では、CO₂の排出削減に向け、車両燃料や電気・ガスなどのエネルギー管理を積極的にすすめてきました。

また、組合員参画のもとに、3R活動の推進や環境測定活動、分別徹底による廃棄物の再資源化の促進など、資源循環型社会を目指した環境保全活動にも継続して取り組んでいます。

2010年度は、「食の未来づくり運動」を通じ、とりわけ環境保全型商品の普及活動、生物多様性を育む取り組みに重点を置きました。温暖化対策では、温暖化防止自主行動計画に基づき、CO₂排出の大きな要因となる車両燃料や事業所の電気使用量の削減に取り組むとともに、一灯型の天井照明など省エネ機器の導入をすすめました。

今般の戦後最悪の大災害は、多くの尊い人命を奪い、地域の経済、産業、そしてくらしを一瞬のうちに破壊しました。そして、燃料資源がいかに大切で、かつ、限りあるものであること、私たちが日常のくらしにおいてどれほどこの限られたエネルギーをふんだんに使用していたかを気付くことにもなりました。

私たちがこれまで取り組んできた温暖化防止対策や3R活動は、事業者の社会的責務としてのみならず、国民一人ひとりが全力で取り組むべき課題として、さらなる強化が求められていくものと認識しております。

東都生協が消費者の組織として、こうした社会的要請に応じていく意味におきましても、2011年度も環境管理活動をより積極的にすすめてまいります。どうか今後ともお力添えのほど、お願い申し上げます。

ここに2010年度東都生協の環境管理活動の取り組みをご報告いたします。皆さまには忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

2011年4月13日
環境管理推進本部
本部長 庭野 吉也

目次 CONTENTS

1. ごあいさつ	p. 1
2. 東都生協の基本理念・環境方針・環境管理体制	p. 2
3. 事業活動と環境とのかかわり	p. 3
4. 2010年度のトピックス・東都生協の環境管理体系図	p. 4
5. 無店舗事業の環境活動	p. 5
6. 店舗の環境活動	p. 6
7. 事業活動で発生する廃棄物の発生抑制	p. 6
8. 環境にやさしい商品の開発と普及	p. 7～8
9. 組合員と共にすすめる3R活動	p. 9
10. 日本生協連 温暖化防止自主行動計画	p. 10
11. エネルギー使用量とCO ₂ 排出量の推移	p. 10
12. 環境活動を推進するための職員教育・啓発	p. 10
13. 組合員とともにすすめた環境保全活動	p. 11
14. 他生協・他団体とすすめた環境保全活動	p. 11
15. 環境に関する組合員からの意見	p. 12
16. 環境関連の法令・条例、その他受け入れを決めた要求事項の遵守・2010年度環境会計	p. 12
2010年度環境監査報告	p. 13
2010年度の環境監査報告を受けて	p. 14
東都生協の環境活動のあゆみ	裏表紙

2 東都生協の基本理念・環境方針・環境管理体制

基本理念

「産直」「協同」「民主」
—いのちとくらしを守るために—

基本理念に基づく個別理念

食と農を事業と運動の基軸におきます。
民主と協同を大切にされた組織運営をします。
社会と環境に責任のある理念を実現します。
職員の誇りと力量を高めます。



環境方針

東都生協は、「産直」「協同」「民主」—いのちとくらしを守るために—という基本理念のもとに、安全で良質な食べ物を中心に、生活に必要なさまざまな商品とサービスを、組合員に安定して届けます。また、すぐれた商品を求める消費者の切実な願いを受けとめる農業生産者・漁業生産者・メーカーと、直接手をつなぎ、産直の事業と運動を進めます。これらの事業活動による環境への影響に対して、適切な環境管理目標を作成し、定期的に見直しを行いながら改善をはかり、環境負荷の軽減に努めます。

1. 地球温暖化を防止するため、事業に使用するエネルギーの使用削減をはかり、CO₂の削減に取り組みます。
2. 環境にやさしい商品の開発と普及をすすめます。
3. 事業活動で発生する廃棄物の発生を抑制します。
4. 資源の再使用（リユース）・再利用（リサイクル）を組合員と共にすすめ、持続可能な資源循環型社会を目指します。
5. 他生協・他団体と連携し、組合員と共に環境保全活動をすすめます。
6. 環境関連の法令、条例、その他受け入れを決めた要求事項を遵守します。

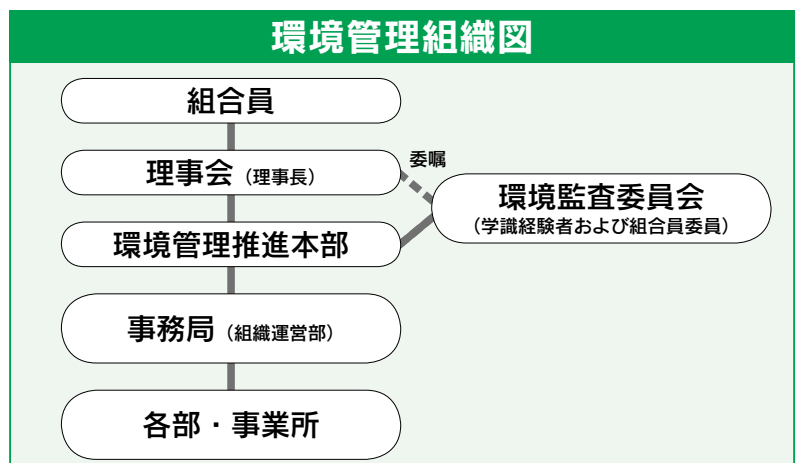
以上の活動を推進するために、全役職員に対して教育・啓発を行い、環境方針を周知します。
この環境方針は、東都生活協同組合内外に公開します。

2007年3月26日
東都生活協同組合
理事長 庭野 吉也

環境管理推進本部委員

本部長	理事長	庭野 吉也
	共同購入事業部	立花 忠男
	商品部	裕田 敏
	総務人事教育部	小澤 朋之
	管理部	松下 寿明
	新規事業推進部	菅 孝
	組織運営部	白数 久明
	組織運営部	和田健太郎

環境管理組織図



環境管理推進本部

生協全事業部署の環境管理に関する方針・目標・行動・計画の起案・実行を促進することを任務とします。

環境監査委員会

理事長が委嘱する環境監査委員で構成され、東都生協の環境管理活動が、定款や環境管理規定に則して適切に実施されていることを確認します。

監査委員会は学識経験者、組合員によって構成されています。



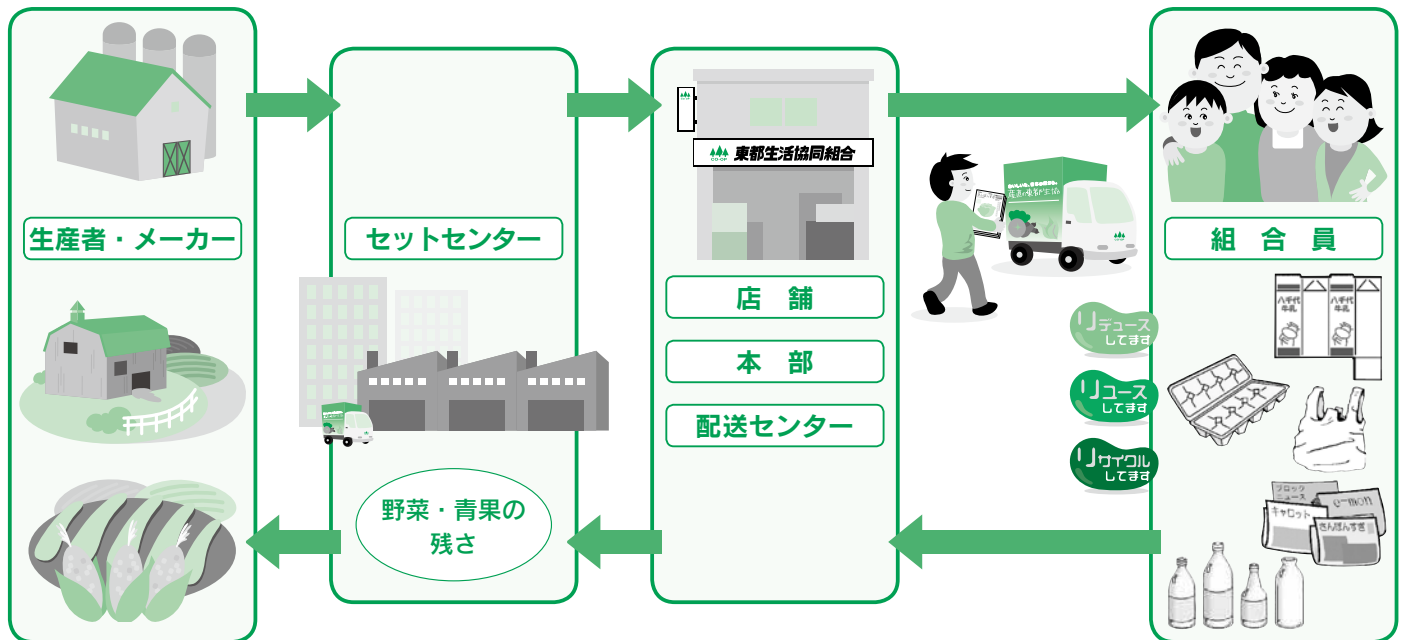
環境監査委員会

各部・事業所

各事業所・部署の環境管理に関する行動計画は、環境管理推進本部の方針・目標・行動計画に基づき、全構成員の自発性を尊重して、部署長が決定します。また、複数部署で構成される場合は、事業所別環境管理委員会を設置し、部署間による環境管理を推進します。

3 事業活動と環境とのかかわり

使用したエネルギー・資源（電気・ガス・水道・車両燃料）（紙・プラスチック）



排出したもの（廃棄物・CO₂）

組織概要

■名称：東都生活協同組合 ■本部所在地：東京都世田谷区船橋6-19-12 ■設立：1973年6月

■事業内容

- ・組合員の生活に必要な物資を購入して、これを加工し、あるいは加工せず、または生産して供給する活動。
- ・組合員の生活に有効な協同施設を設置し、組合員の利用に供する活動。
- ・組合員の生活改善および文化の向上をはかる活動とそのための教育活動。
- ・組合員および役員・職員の協同組合に関する知識の向上をはかる活動。
- ・組合員の生活の共済をはかる事業。
- ・前各号の活動に付帯する事業。

■組合員数：228,553人 ■出資金：69億8,602万円 ■供給高：338億5,906万円

■施設数：配送センター 17、店舗 2、青果センター 1、本部、管理部、その他

■職員数：954人（正規職員423人、定時職員アルバイト含む531人）

4 2010年度のトピックス

■温暖化防止活動

- ・1灯型の天井照明を船橋ビル（電算処理業務などを行っている施設）に導入しました。→p. 5
- ・クールネット東京による「省エネ診断」を3つの施設（国立センター・町田センター・さんぼんすぎセンター）で受けました。→p. 5
- ・車両燃料の削減に向けてアイドリングストップ装置の使用や供給コースの効率化に取り組みました。→p. 5



■環境にやさしい商品の開発と利用普及

- ・東都生協、丸富製紙(株)、千葉北部酪農農協と共同開発した「東都もーもティッシュ」が誕生、利用代金の一部（約57万円）が酪農家支援のために寄付されました。→p. 8
- ・リサイクル洗びんセンターを支援！ リユ



ースびん商品の普及をしました。→p. 8

■3R活動

- ・お買い物袋の持参率は99.8%でした。→p. 9
- ・リユースびん商品の利用普及と回収率向上に向けた活動を行いました。→p. 9

■学習教育活動

- ・職員によるエネルギー削減の取り組み「エコ・チャレンジ」を全事業所で実施しました。→p. 10

■他団体とすすめる環境保全活動

- ・リサイクル洗びんセンター支援募金に取り組み、約300万円の募金が集まりました。→p. 11
- ・生物多様性の大切さについて、そのつながりを学習しました。→p. 11
- ・2R（リデュース・リユース）を促進する国会請願署名に取り組みました。→p. 12

2010年度 東都生協の環境管理体系図

理念	考え方・原則	対象・範囲	やり方・方法	
基本理念 「産直」「協同」「民主」のちとくらしを守るために 事業活動による環境への影響に対して、適切な環境管理目標を作成し、定期的に見直しを行いながら改善をはかり、環境負荷軽減に努めます。	地球温暖化を防止するため、事業に使用するエネルギーの使用削減をはかり、CO ₂ の削減に取り組みます	※エネルギー	※電気 ※ガス 水道	エコチャレンジの実施（夏季・冬季） 太陽エネルギーの導入
		※車両燃料	※ガソリン ※LPG ※軽油 CNG	アイドリングストップ装置付き車両の導入 既存車両へのアイドリングストップ装置の取り付け LPG以外の低公害車の導入
	環境にやさしい商品の開発と普及をすすめます	水	石鹸	洗濯石けんの普及 セモラの普及
		紙	再生紙	古紙ティッシュの普及 古紙ロールの普及
		生産物	農畜産物	東都みのりの普及 北里八雲牛の普及 かこうれんポークの普及
	事業活動で発生する廃棄物の発生を抑制します	※廃棄物	※焼却処理する廃プラスチック 廃棄物の排出量	排出量の抑制 排出量の抑制 生ごみ堆肥化
			紙	商品案内
	リデュース	印刷用紙		商品案内
			リユース	リユースびん トマト空き箱
	資源の再使用（リユース）・再利用（リサイクル）を組合員とともにすすめ、持続可能な資源循環型社会をめざします	リデュース	冷蔵袋 青果袋 冷凍袋 パン袋 レジ袋	使用量の抑制 レジ袋の有料化
			リユース	リユースびん トマト空き箱
	他生協・他団体と連携し、組合員とともに環境保全活動をすすめます	リサイクル	紙パック たまごパック 商品案内 OCR注文書 商品のお届けに使用しているポリ袋 ダンボール	回収率の向上
			組合員（消費者）	
環境関連の法令、条例、その他受け入れを決めた要求を遵守します	学習教育	日本生活協同組合連合会		環境活動交流
		東京都生活協同組合連合会	都内生協との連携	
		法令、条例 独自計画	関連法令の学習 環境教育	

他生協・他団体との連携	他団体	びん再利用ネットワーク
	他生協	東京都生活協同組合連合会 環境対策連絡会

※の部分 「日本生協連・温暖化防止自主行動計画」の対象項目

5 無店舗事業の環境活動

東都生協が事業活動で排出するCO₂排出量の割合は、車両燃料（約60%）・電気（約39%）・ガス、水道（約1%）です。2010年度は「車両燃料」と「電気」の削減を重点とした取り組みをすすめました。

1) 車両燃料の使用量削減と低公害車の導入

①2010年度の目標

- ・アイドリングストップ装置の使用や、供給コースの効率化などにより車両燃料の削減をすすめる。
- ・環境性能の高い車両・車両燃料の調査研究を行う。

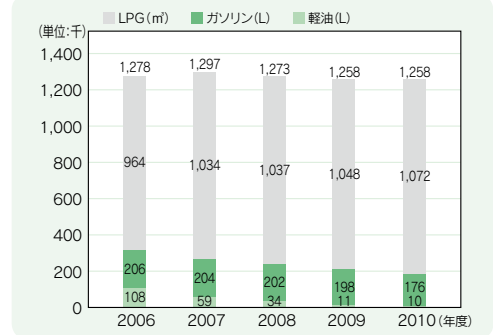
②2010年度の結果

車両燃料の使用量は約126万リットル（前年比100.0%）CO₂換算では2,236トンの排出量でした。供給コースの効率化や、アイドリングストップ装置の運用改善、装着台数を増やすことが次年度の継続課題となりました。

③環境性能の高い車両・車両燃料の調査研究

東都生協の環境負荷の少ない車両として、LPG（液化石油ガス）の使用を積極的にすすめてきました。現在では供給トラックの約86%がLPG車です。これは、長年取り組みをすすめた成果ですが、一方では偏った車両燃料を使用することによるリスクになる可能性もあります。

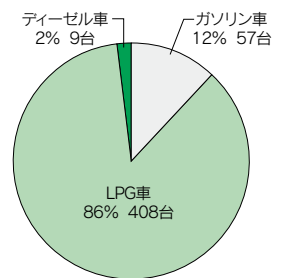
また、東都生協が使用している供給トラック（LPG車両）が生産停止になり、現在はガソリン車を導入しています。2011年度は、これらの状況を踏まえた車両政策を検討することが課題になりました。



車両燃料の使用量の推移



導入したガソリン車



燃料別での車両台数の割合

2) 省エネ機器の導入による電気の使用量削減

1灯式の天井照明を船橋ビル（注文書などを電算処理する施設）全館に設置しました！

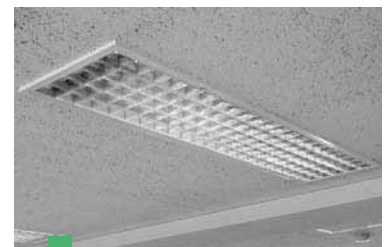
このしくみは、既存の蛍光灯（40W×2本タイプ）を省エネタイプ（32W×1本）に変更し、専用の反射板を付け不足した光量を補う方法です。利用者からは、「支障なく使用できている」「教えてもらうまで気がつかなかった」などの声が寄せられています。

また、省エネ機器の導入に加え、各事業所で実施した職員による省エネ活動もエネルギー使用量の削減につながりました。

太陽光発電の導入については、さんぼんすぎセンター屋上と配送センターへの設置を検討しましたが、施設の耐震構造や強度が条件に満たないことが分かり設置には至りませんでした。大規模災害での停電時でも電力が確保できる側面もあるため、引き続き調査研究をします。

3) 「省エネ診断」による温暖化防止活動の運用改善

クールネット東京（東京都地球温暖化防止活動推進センター）による「省エネ診断」を、さんぼんすぎセンター、国立センター、町田センターで受けました。



省エネ診断の様子（国立センター）
写真右側は屋上緑化で植えた「セダム」

6 店舗の環境活動

1) エネルギー使用量の削減

①2010年度の目標

- ・省エネ診断による改善提案を参考にエネルギー使用量の削減をすすめる。
- ・デマンド監視システムや省エネ機器の導入によるエネルギー使用量の削減をすすめる。
- ・太陽光発電・太陽熱温水器など自然エネルギーの導入に向けた調査研究を行う。

②2010年度の結果

店舗で使用した電力は約35万kWh（前年比99.3%）となり、前年より削減することができました。

- ・さんぼんすぎセンター利用者の協力を得て、デマンド監視システムの運用による電気使用量の削減に取り組みました。

*デマンド監視システムとは
管理目標として設定した使用量を超えると警報が鳴り、電力の最大使用値を抑制することで平均使用電力を下げるしくみ。（※家庭に設置されているブレーカーと同じようなしくみです。）

- ・省エネ診断による改善提案を受け、さんぼんすぎセンター（店舗）に設置されている空調機を代替しました。これにより電気使用量の削減が見込めます。



デマンド監視装置
さんぼんすぎセンターの
受付に設置しています。

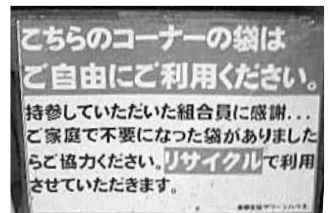
2) レジ袋削減の取り組み



2010年度の販売枚数は272枚。

お買い物袋の持参率は99.8%でした！

東都生協は、資源の有効利用をするためにレジ袋の有料化や、使用済みの紙袋を集めてレジ袋の必要な方に無料で配布する活動を実施しています。今年度も店舗利用者の協力により廃棄物の発生を抑制することができました。

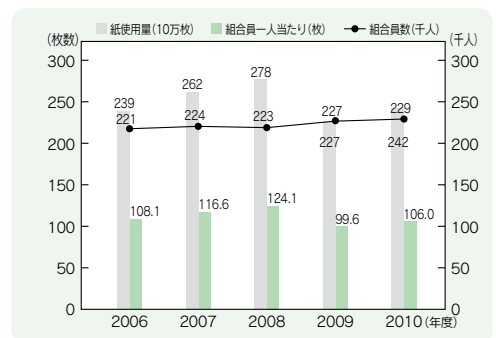


使用済み紙袋を
無料配布してレジ袋を削減！

7 事業活動で発生する廃棄物の発生抑制

①紙の使用量の削減

2010年度に使用した印刷用紙は2,423万枚（前年比107%）となり、前年より増加しました。次年度はOA機器の変更や印刷ルールの変更による使用削減をすすめます。



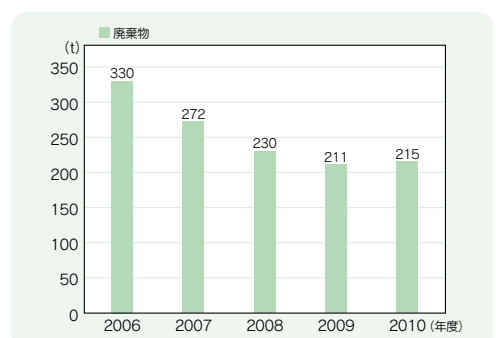
紙の使用枚数の推移

②廃棄物の排出量の削減

事業活動で発生する廃棄物は分別を行い、可能な限り削減・再資源化をすすめています。

2010年度は廃棄物に含まれる紙類の分別ルールを見直し再生利用することに取り組みました。

廃棄物の排出量は約215トン（前年比102%）と、昨年より増加する結果となりました。



廃棄物の排出量の推移

8 環境にやさしい商品の開発と普及

東都生協は、「食の未来づくり運動」を通じて、環境にやさしい商品の開発と普及をすすめていきます。

「食」への不安が多い時代だからこそ、私たちにできること……

それは自らのライフスタイルを見直し、日本の農業を元気にするために「農」の現場を知り、積極的ににかかわること。そして、広く社会に発信していくこと。

設立以来、産直を理念に掲げ、生産者とともに歩んできた東都生協だからこそできる「食の未来づくり運動」をすすめています。

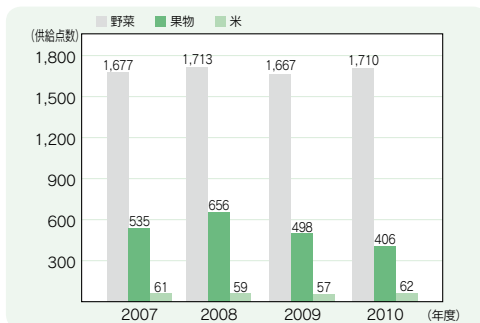


1) 農産物

東都生協の農産物は、いつ、どこで、だれが、どのように作っているかが明らかな国産の産直品です。土づくりを大切にし、農薬や化学肥料の削減に取り組み、地域環境の保全に配慮した産地からお届けしています。また、毎週お届けする商品案内には、すべての野菜・果物・米に「栽培区分」を表示。化学合成農薬や化学肥料の削減のレベルと、土づくり、環境保全の取り組みの到達度を明記しています。

■2010年度の状況

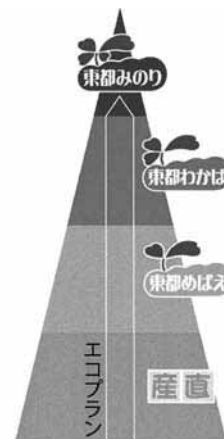
「東都みのり」農産物（野菜・果物・米）の供給点数は約218万点（前年比98%）でした。



東都みのりの供給点数の推移（単位：千点）



ひと目でわかる「栽培区分表示」



「東都みのり」

有機JASの認定を受けた農産物、または化学合成農薬や化学肥料を使用せずに栽培した産直農産物

「東都わかば」

化学合成農薬、または化学肥料をおおむね50%以上削減して栽培された産直農産物

「東都めばえ」

化学合成農薬、または化学肥料をおおむね30%以上削減して栽培された産直農産物

「産直」

東都生協が「農産物ガイド」をもとに「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」栽培したかを確認した産直農産物

2) 畜産物

東都生協には国産の飼料用米を使った「かこうれんポーク」や自給飼料100%で育てた「北里八雲牛」などがあります。これらの商品を利用することは、飼料用穀物の自給率向上だけでなく、休耕田などの活用、稲作農家と畜産農家の連携による循環型農業モデルの推進の応援にもなります。

①北里八雲牛

日本の畜産は飼料のほとんどを輸入に依存しています。そのような状況の中、北里大学獣医畜産学部附属フィールドサイエンスセンター八雲牧場では、自給飼料で牛を飼育し、その排泄物はたい肥にして牧場に還元するという、自然の循環を大切にした『環境保全型畜産』に取り組んでいます。2010年度の供給点数は17,180点（前年比121%）でした。



北里八雲牛の供給点数の推移（単位：千点）

②かこうれんポーク

「かこうれんポーク」を生産している日向養豚^{ひなた}は、家畜のふんで堆肥を生産して近隣の農家に供給してきました。こうした地域での取り組みのなか、JAみどりの田尻地区の生産者が、補助金を活用して生産した飼料用米を、餌として使用しています。

2010年度の供給点数は92,561点（前年比127%）でした。

畜産物については、次年度以降も取り組みを広める活動を計画していきます。



3) 水産物

東都生協は「食の未来づくり運動」を通じて日本の水産業と組合員のくらしを近づける取り組みをすすめています。

魚つきの森運動 食べることで「魚つきの森」運動をサポート！

「魚つきの森」植樹協議会の活動資金には、東都生協での商品利用重量に応じた負担金の一部が当てられています。商品の包装に「魚つきの森」マークの付いた商品を利用することで運動のサポートにつながります。

～豊かな海を守り育てる東都生協の海づくり～ 魚つきの森植樹協議会



北海道枝幸の豊かな自然環境を次世代に残していくため、2007年6月に「枝幸魚つきの森」植樹協議会を立ち上げ、豊かな海を守り育てる活動として、植樹活動やほたての稚貝放流、鮭の稚魚放流などの海づくり運動をしています。



2009年4月にスタートした「三陸牡鹿表浜魚つきの森」植樹協議会は、料理教室で産地交流を行いました。
※2011年3月11日に発生した「東日本大震災」により、産地は甚大な被害を受けられました。心からお見舞い申し上げます。

■環境に配慮し、水産資源の回復をめざし設立されたMSC漁業認証を土佐鯉水産グループが取得。



「かつお一本釣り漁法」を3月4回商品案内でご案内しました。

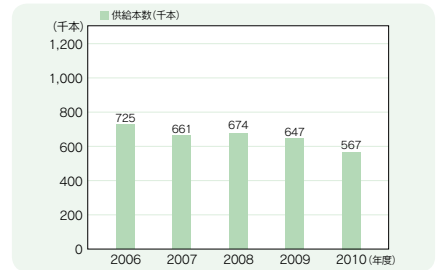
※MSC：持続可能な漁業で獲られた水産物



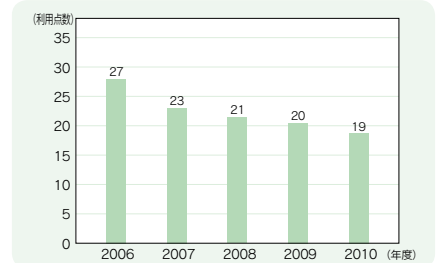
4) リユースびん商品

東都生協は、使用済みのびんを洗ってくり返し使い環境負荷を軽減する取り組みと、障害のある人たちの働く場を作るという大きな理念をもってリユースびん商品の普及活動をすすめています。

2010年度はリサイクル洗びんセンター支援活動として8月2回企画、11月4回企画の商品案内でリユースびん商品の利用普及を行いました。供給本数は約57万本（前年比87%）でした。



リユースびん商品の供給本数の推移



セモラの供給点数の推移 (単位：千点)

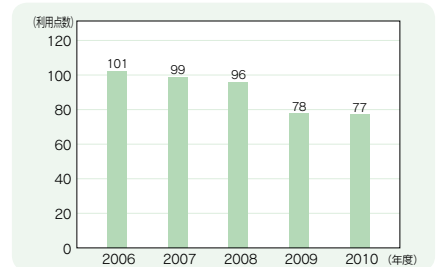
5) 洗濯用石けん・洗剤

東都生協は家庭排水による環境への影響を考え、環境への影響が少ない洗濯用せっけん・洗剤の普及と利用率の向上をめざしています。

・ねり状米ぬかせっけん「セモラ」は、小平市にある精神障害のある方たちの施設である共同作業所「福祉工場エバグリーン」の手作り製品です。2010年度は、支部・ブロックでねり状米ぬかせっけん「EXセモラ」とスポンジのセットを実際に使用してもらいセモラの良さを伝え利用普及につなげるためのアンケートに取り組みました。供給点数は18,776点（前年比92%）でした。



・洗濯用石けん・洗剤の供給点数は77,335点（前年99%）でした。

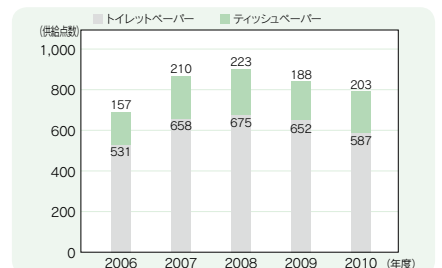


洗濯用石けんの供給点数の推移 (単位：千点)

6) 古紙を使用した製品 (トイレトペーパー・ティッシュペーパー)

東都生協、丸富製紙(株)、千葉北部酪農農協を再生紙でつなぐ取り組み「もーもーぼきん」に取り組みました。

- ・東都もーもーティッシュの供給点数は113,768点、568,840円の募金が千葉北部酪農農協の生産者支援として集まりました。
- ・トイレトペーパーの供給点数は約59万点（前年比90%）でした。
- ・ティッシュペーパーの供給点数は約20万点（前年比108%）でした。



トイレトペーパー・ティッシュペーパーの供給点数の推移 (単位：千点)

9 組合員と共にすすめる3R活動

3R活動の優先順位は①リデュース ②リユース ③リサイクルです。
2010年度も組合員とともに取り組みをすすめました。

R **リデュース活動**
くらしのなかで発生するさまざまな廃棄物を減らします。
お買い物袋の持参率は99.8%でした！



2010年度もレジ袋の有料化や、使用済みの紙袋を無料で配布する活動をおこない
事業活動により発生する廃棄物の発生を抑制することができました。

R **リユース活動**
できるだけくり返し使い続けます。



東都生協は、リユースびん・商品のお届けに使用している折り畳みコンテナ・保冷箱・トマト箱・いちごの外箱をリユース（くり返し使う）しています。

2010年度リユースびんの回収率は68.6%でした。

*詳しくは、東都生協のホームページをご覧ください。
<http://www.tohto-coop.or.jp/ecology/3r/>

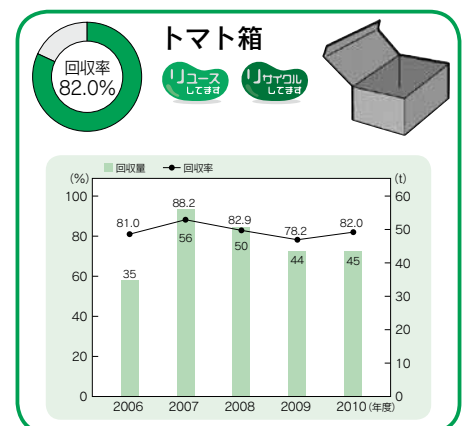
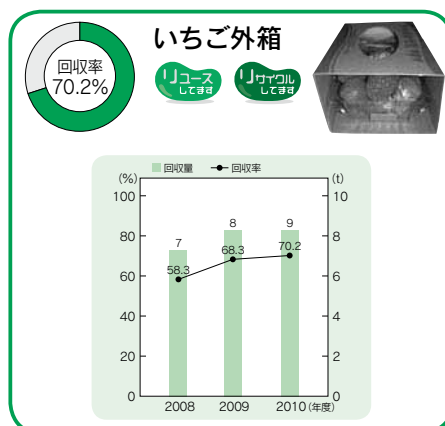
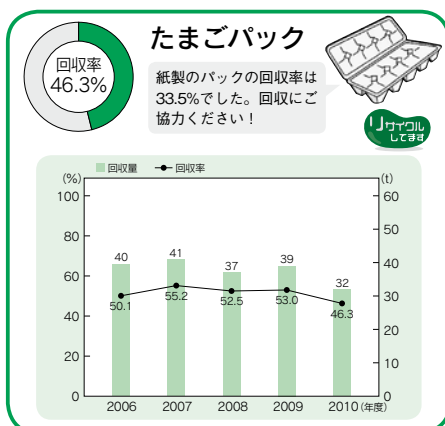
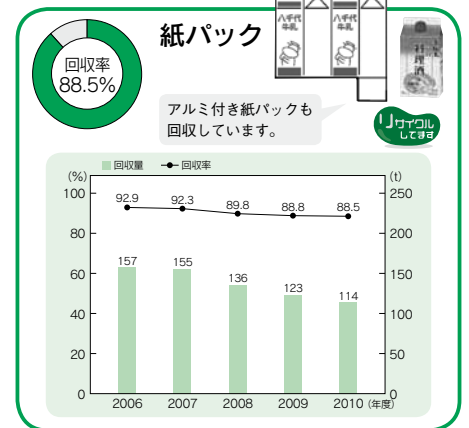
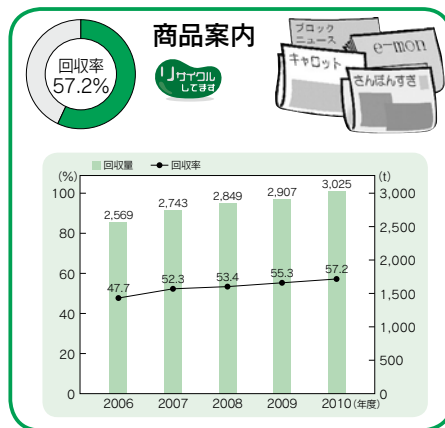
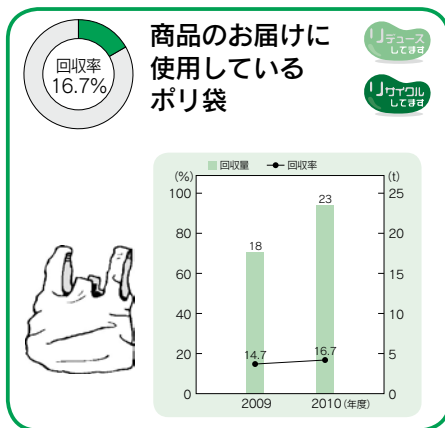


※200mlは、現在企画されていないためデータなし

R **リサイクル活動**
かたちを変えて再生利用します。



リユースできないものはリサイクル（再生利用）します。2009年7月より回収をはじめた商品のお届けに使用しているポリ袋の回収率は16.7%でした。不純物（紙ラベル・回収対象外の袋や容器・汚れている袋）の混入は、開始当初より改善されましたがいまだ無くならない状況です。回収率40%の目標達成をめざして取り組みをすすめています。



■食物残さを、畑でもう一度利用する取り組みを検討しました。

食の未来づくり運動で提起されている環境にやさしい持続可能な農業の確立の一環として、家庭から出る食物残さを畑でもう一度利用することに向けて実験を行いました。

10 日本生協連 温暖化防止自主行動計画

「温暖化防止自主行動計画」とは、地球温暖化防止を推進するために、日本生協連が全国の生協に呼びかけた取り組みです。全国64の生協が取り組んでいます。東都生協は、2007年度から計画を策定し、地球温暖化防止に向けての取り組みを全国の生協とともにすすめています。

■2010年度の目標と結果

2010年度は、原単位（商品の供給高1億円あたりのCO2排出量）を9.8トンにすることを目標として取り組みました。結果は11.1トンとなり、目標を達成することはできませんでした。また、基準年として定めた2002年の原単位（9.4トン）に対しては118.4%でした。

年度	2002 (基準年)	2007	2008	2009	2010
CO2 (トン)	3,690	3,877	3,762	3,694	3,723
供給高 (億円)	401	371	369	353	339
1億円あたりのCO2排出量 (トン)	9.3	10.5	10.2	10.5	11.1

※上記のCO2排出量及び供給高は、温暖化防止自主行動計画の対象範囲（車両燃料、電気、ガス）の合計です。

11 エネルギー使用量とCO2排出量の推移

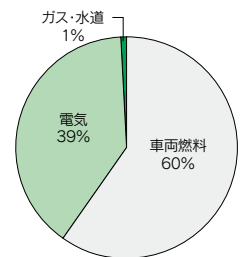
■2010年度の目標

- ・エネルギー（電気、ガス、水道、車両燃料）の使用に伴うCO2排出量を前年より1%削減する。

■2010年度の結果

- ・CO2排出量は3,729トン（前年比100.8%）となり、目標を達成することができませんでした。主な要因は猛暑の影響により電気の使用量が増加したことです。

年度	2007	2008	2009	2010
電気 (トン)	1,487	1,438	1,423	1,466
ガス (トン)	24	22	20	20
水道 (トン)	6	7	7	6
車両燃料 (トン)	2,367	2,302	2,251	2,236
CO2排出量 (トン)	3,884	3,768	3,700	3,729
供給高 (億円)	371	373	353	339



12 環境活動を推進するための職員教育・啓発

■「環境かわら版」を発行！

今年度は、職員が自主活動としてはじめた「使用済みインクカートリッジ」の回収や、東都生協の温暖化対策を紹介して環境管理活動の促進につなげました。東日本大震災の発生に伴う計画停電が行われた際は、「号外」を発行し、節電を呼びかけました。

■「エコ・チャレンジ」を全事業所で実施しました！

夏と冬の2回エネルギー使用量の削減に向けたチャレンジ目標を掲げ、全事業所で取り組みました。

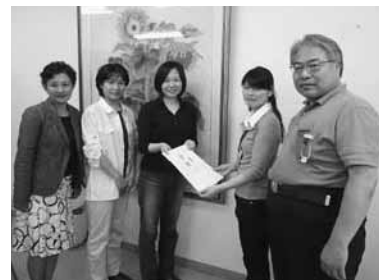


13 組合員とともにすすめた環境保全活動

■リサイクル洗びんセンターの支援活動に取り組みました！

リサイクル洗びんセンター支援募金・リサイクル洗びんセンターを支える会の入会を呼びかけました。支援募金は約300万円、「リサイクル洗びんセンターを支える会」は52人が加入しました。

募金はリサイクル洗びんセンターの機械や施設の修繕費用として使用します。



2009年度募金の贈呈式

■100万人のキャンドルナイト

取り組みの様子や感想文、写真を募集しました。

感想文を提出した組合員に「ミニ・キャンドル（ユニセフ製品）」をプレゼントしました。

～参加者の感想～

まったりとした時間を過ごすことができました。ろうそくの灯りが、消したテレビの画面に映ってさらにやわらかな光が優しく暖かな雰囲気でもとても良かったです。



田んぼの生きもの調査

■田んぼの生きもの調査

JAみどりの（宮城県）と「田んぼの生きもの調査活動」を実施しています。

有機農業や生物多様性を保全する取り組みとして活動を広げました。



身近な水環境の全国一斉測定会

■環境測定活動

- ・NO₂測定……………6月・12月（カプセル配布数 計1,748個）
- ・身近な水環境の全国一斉測定会……………6月（参加人数3人）
- ・酸性雨測定……………7月（参加人数7人）

■環境学習活動の取り組み

・「楽しくわかる 生物多様性」のはなし（主催 社会委員会）・8月（参加者23人）
小山厚子さん（全国地球温暖化防止活動推進センター JCCCA インタープリター）を講師に招き、生き物たちの世界が地球温暖化によって脅かされることや、生物多様性の大切さについて、そのつながりを学習しました。



生物多様性について学習しました

・TPP（環太平洋経済連携協定）について学習会を開催しました。

『TPP開国論』を糺す～危機に立つ食と農の未来～（東都生協産直協総会記念公演）内橋克人氏（経済評論家）を講師に招き学習会を開催しました。

14 他生協・他団体とすすめた環境保全活動

■太陽光発電の斡旋事業に取り組みました。

2010年度も、引き続き、NPO法人太陽光発電所ネットワークの助力も得て普及に努めました。従来の講義形式のみのセミナーから、ソーラー発電設置住宅の見学も含めたセミナーを開始しました。「メーカーごとの特徴が理解できた」と好評でした。

□資料「比べて選ぼうソーラー発電」の請求 約300件・見積依頼8件・成約5件でした。



■東京都生協連・環境対策連絡会

東京都生協連・環境対策連絡会は、都内の生協が取り組む環境に関する活動について情報交流し、さまざまな視点から持続可能な社会環境づくりをめざして作られました。2010年度は、ライフスタイルフォーラム2010で「間伐材を使用した割り箸てっぽう作り」を出展しました。

■びん再使用ネットワーク

「びん再使用ネットワーク」は 環境保全・資源循環型社会の構築をめざした生協団体のネットワークとして、1994年4月に設立されました。加盟生協は、東都生協を含む全国の6生協です。

2010年度は、2R（リデュース・リユース）を促進する国会請願署名に取り組み、東都生協では約14,000筆の署名が集まりました。

15 環境に関する組合員からの意見

組合員から環境に関する意見・要望が寄せられています。2010年度は、商品のお届けに使用しているポリ袋に関することや、商品の包材（ダンボール）の回収について声を頂きました。

16 環境関連の法令・条例、その他受け入れを決めた要求事項の遵守

環境関連法規に基づき、廃棄物処理法、容器包装リサイクル法、食品リサイクル法、省エネルギー法など、法で定められた要求事項および、その他受け入れを決めた事項を遵守しました。2011年度も引き続き、環境関連法令にて定められた要求事項を遵守します。

環境保全コストと効果の集計 環境会計

集計範囲：（東都生協の環境管理項目内）

対象期間：2010年3月21日～2011年3月20日

単位（千円）

環境保全コスト				
分類	主な取り組みの内容		投資額	費用額
事業エリア内 コスト	公害防止コスト	なし	0	0
	地球環境保全コスト	・低公害車（LPG車）の導入 ・冷凍機の入替え ・空調機の入替え ・照明器具・照明の交換	0	8,468
	資源循環コスト	事業活動により排出された廃棄物処理費用	0	8,383
上・下流コスト	容器包装リサイクル法に基づく再商品化委託料 リユースびんの回収保管費用 カレットの処理費用 廃プラスチックのリサイクル費用 商品のお届けに使用するポリ袋の回収費用	0	11,725	
管理活動コスト	環境監査委員（学識経験者・組合員理事）による監査（年3回開催）	0	350	
調査研究コスト	調査研究費（書籍代など）	0	1.5	
社会活動コスト	団体会費・他団体支援 環境管理報告書の作成 環境学習会の開催 環境測定活動 環境保全活動	0	1,128	
環境損傷対応コスト	なし			

※日本生協連の「生協版環境会計ガイドライン」をもとに、東都生協の環境活動を洗い出し、把握しました。

単位（千円）

環境保全効果						
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動から投入する資源に関する効果	環境保全効果を表す指標		2010年度実績	2009年度との差	
		エネルギーの投入	電気(kWh)			3,878,659
都市ガス(m³)				3,094	376	
重油(L)				0	0	
LPG(m³)				2,242	-149	
水(m³)				10,250	-780	
ガソリン(L)				175,637	-22,636	
軽油(L)				10,141	-877	
		LPG(m³)		1,071,937	23,669	
		エネルギー消費によるCO2排出量(t)		3,729	28	
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	大気への排出など	NOx排出量(t)		-	-	
	水域、土壌への排出			-	-	
	廃棄物などの排出(t)			215	4	
	廃棄物リサイクル量(t)			47	2	
上・下流コストに対応する効果	事業活動から産出する財・サービスに関する効果	レジ袋想定削減枚数		147,069	-3,808	
		回収リサイクル量(t)	牛乳パック回収		114	-9
			商品案内回収		3,025	118
			たまごパック回収		34	-5
			リユースびん回収(本)		389,328	-58,880
			トマト箱回収		46	2

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金額
収益	リサイクルによる有価物の売却収入	27,692
	マイバッグ運動によるレジ袋代金	1.4
経費節減	省エネ、省資源による経費の節減	-5,354
	発生抑制またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	204
環境配慮商品の供給高		1,177,500
環境配慮商品の供給総点数(点)		3,667,915(点)
供給高全体に占める環境配慮商品供給高の割合(%)		3.5%

※レジ袋想定削減枚数

= (①来客点数×②想定使用枚数) - ③実使用枚数

■2009年度 ①151,109人 ②1人につき1枚 ③232枚

■2010年度 ①147,341人 ②1人につき1枚 ③272枚

2010年度環境監査報告

2011年4月26日

東都生協 環境監査委員会

監査委員長 東京農工大学名誉教授 瀬戸 昌之

立正大学名誉教授 田口 正己

組合員理事 岩崎 初音

組合員理事 鮫島 ふみ

組合員理事 原田 久子

恐ろしい災害が再び起こってしまった。東北関東の大震災である。これに追い討ちをかけたのが、原発事故である。被災者の血を吐くような言葉、避難所における飢えや寒さとの戦い、復旧に身を粉にしている人たちの苦勞などに涙が抑えられない。

この報告書を書いている今、東京では桜が満開である。暖かい桜の風が一刻も早く被災地に届けと念ずるばかりである。

さて、東都生協の環境改善の取り組みは今年も多岐にわたった。例えば、1灯型の天井照明、都の「省エネ診断」、アイドリングストップなどによる地球温暖化防止の取り組み。洗濯用石けん、古紙を利用したトイレトーパーなどの環境にやさしい商品の開発・普及の取り組み。さらには、リユースびん、マイバッグ持参などによる3R活動、「エコ・チャレンジ」や生物多様性の学習会の取り組みなどである。なお、洗びんセンターや酪農家に400万円に近い支援が実施されている。

東都生協は環境団体や市民との連携も必要と思われる。

たとえば、LPG車は環境にやさしいとされたので、東都生協は商品配送のために、ガソリン車からLPG車に買い換えた。ところがLPG車はやがて生産中止だそうである。LPG車への買い替えが普及したら、ガソリン車に再び買い替えさせようというわけである。このような「環境」をダシにした政財界の策略をはね返すために、関連の環境団体はもとより環境を考える市民との連携も必要と思われる。なお、大地震のあと、ガソリンスタンドの閉鎖などで貨物輸送が困難なときがあった。しかしながら、東都生協はスムーズに配送できた。LPGスタンドは閉鎖されなかったからである。ここに、「多様であること」が「安定」をもたらす例を見ることもできる。

関税撤廃をめざすTPP（環太平洋経済連携協定）をどうするか。

TPPで輸出を拡大して外貨を稼げるとする輸出産業と多国籍企業、そして安価な食料が購入できるとする一部の国民の期待は大きい。しかしながら、TPPの議論には以下の視点が不十分である。

すなわち、農林業はコメや木材を生産しているだけではない。農林業は国土保全や地球温暖化阻止などの公益的価値も生産している。たとえば、コメの生産額は年2兆円程度であるが、水田が生み出す洪水防止、地下水涵養、土壌保全などの価値は数兆円にもなる。この価値の恩恵をすべての人が享受しているにもかかわらず、日本のコメの価格は世界一高いと文句こそ言え、水田が生み出すこれらの価値の「良いこと」に想いをはせることはまれである。TPPは農林業を衰退させるからこれらの価値を失わせる。TPPで得るものより、失うものがあまりにも大きいのである。

いっぽう、TPPは大規模な機械化やモノカルチャー（単一作物の栽培）による土壌の酷使・劣化、生物多様性の低下、物質循環の遮断、さらに地球温暖化の激化などの「悪いこと」をもたらす。

経済のグローバル化の潮流の中でTPPへの参加は不可避とし、経済の大競争をよしとするなら、「良いこと」には金銭的インセンティブとして支払い、「悪いこと」には罰金を支払わせる公正かつ実効性のある施策が前提なのである。この前提を貫くためにも、環境団体はもとより環境を考える市民との連携は、さらに重要になるとと思われる。

2010年度の環境監査報告を受けて

東都生協の環境監査を実施いただき、監査報告書としてとりまとめていただきましたことに厚く感謝とお礼を申し上げます。2011年度の環境管理活動の中で、今回ご指摘いただいた内容につき、以下のとおり対応してまいりますことをご報告申し上げます。

温暖化対策について

2011年度は、東都生協が事業活動で使用するエネルギーの割合が多い車両燃料、電気使用量の削減を社会的責務と捉えつつ、大規模災害を想定した対策と併せた環境負荷軽減の方向性を定めます。

また、再生可能なエネルギーを含む省エネ機器の導入と併せて、組合員、職員が日常生活や業務において、誰もが確実に実施できるエネルギーの削減行動を提案し、事業活動のみならず組合員一人ひとりの家庭においてもエネルギーの削減が実施できるよう、取り組みをすすめます。

3R活動について

私たちは長年にわたり、持続可能な資源循環型社会をめざし取り組みをすすめてきました。できるだけ減らし、くり返し使い、かたちを変えて使うことは、限りある資源の有効利用のみならず、エネルギーの削減に直接つながることを組合員とともに再確認し、さらなる取り組みをすすめます。

環境配慮商品について

2011年度は、「食の未来づくり運動」を通じた国内農業、水産業の維持発展や生物多様性を育む取り組みをすすめつつ、今回の大災害により被災した産地や取引先の復興や、組合員の切実な要望に応えた商品を調達するための対策に取り組みます。

また、TPP（環太平洋経済連携協定）への参加は、大切な食料をいま以上他国に委ねることとなり、国民のいのちとくらしの糧となる食料の安定供給と食の安全性を脅かし、子どもたちの豊かな未来を奪うことにつながるものです。組合員とともに学習し日本農業の発展と食料自給率向上の運動に取り組みます。

他生協・他団体との連携について

今年度は、リサイクル洗びんセンターの支援活動、もーもーティッシュ募金を行い、多くの組合員の賛同を得ました。この活動は、環境保全に役立つ商品の購入や募金を通じてリサイクル洗びんセンターで働く方や、酪農家を支援する大変意義ある取り組みでもあり、今後、東都生協が行う活動の大きな希望につながる結果を得ることができました。2011年度も引き続き、他生協、他団体と連携し取り組みをすすめます。

2011年度も引き続き、組合員、役職員一体となって、「食の未来づくり運動」を通じて持続可能な社会づくりに向けた取り組みをすすめてまいります。

2011年5月6日
東都生活協同組合
理事長 庭野 吉也

東都生協の環境活動のあゆみ



2010年度環境管理報告書

【発行】

2011年5月

【問い合わせ先】

東都生活協同組合
環境管理推進本部

〒156-0055

東京都世田谷区船橋5-28-6

吉崎ビル4F

電話：03-5374-4756

FAX：03-5374-4759